

会員交流広場

～皆様からのメッセージの一部を紹介～

今年度の会員交流会(8月18日(火)※)のご案内にあわせて皆様からいただきましたメッセージを、当財団のホームページ(<http://www.t-hito.or.jp>)に掲載させていただいております。

ニューノーマルは、富山にとって追い風。テレワークが可能ならすべての業務・職種が、快適に実務できる環境を富山に早急に整備すべき。

食に恵まれ、住環境も良く、首都圏、名阪神にも近いという地理的条件も良く、ニューノーマル時代の先陣を切っていくべき。

スポーツを核として産官学の連携による新たな事業の創出、地域活性化により、ブランド向上と経済への波及効果を実現する。

立山・黒部について県庁からの委託で制作したテレビ番組のビデオを取材した折、室堂で夏の雷鳥を間近で見た感激は忘れられない。

富山県が長年にわたって「全国で一番住みたい県」になったように、豊かな自然をいかしながら、社会福祉政策などに力を入れ、日本のスウェーデンと呼ばれるほどになった実績を継続してほしい。

皆様、御元気でしょうか？世界に……新型コロナ感染症。素敵な協力の仕方も、又、心重くなるニュースも共有しております。

私の周りにも「黒部のトロッコ電車に乗った」とか「八尾の風の盆を見てきた」とか富山県に魅力を感じている人は多い。この間はNHKの鶴瓶の番組で「木彫りのまち井波」を身近に感じた。島尾海岸や内川から立山を望む写真なども知られてきたように思われる。

これからも、住みやすく風光明媚で美しい、人々を惹きつける富山県であり続けてほしい。

コロナ禍は、首都一極集中から、地方分散を啓発します。潜在魅力の多い富山県の発展が促進されます。

厳しいコロナ禍の中、今、日本だけでなく世界は大都市からワークライフバランスと産業振興を重ねた“新常态”の社会、地方への注目という変化が急速に進んでいます。自然、生活環境、産業、教育など、総合的に見て富山県は“新常态”の日本でキーになる県であることは間違いなく、「リモート社会、新常态、ワークライフバランスの最先端富山県」をどんどん施策としても打ち出しアピールすべきです。

ずっと、美しい故郷でいてください。

災害も少なく、食べ物も美味しい。是非若手のIT系エンジニアが集まれる地域になって欲しいです。

何と言っても新幹線の開通です。去年は、同期会・クラス会・部活仲間会など、10回以上新幹線で氷見・高岡に出掛けました。本当に富山が身近となりました。しかし、今年はコロナでまだ一度も出掛けておりません。8月には墓参り・ゴルフ会に行く予定です。氷見の民宿での魚料理も大変楽しみです。富山県出身を自慢しています。

凜とそびえ立つ立山の雄姿は忘れません。雪の大谷、シロエビの水揚げ……。

貴重な取材体験は一生の思い出です。また、ゆっくり富山を訪れたいです。

小学生のころ毎年5月、高岡御車山祭に合わせ市内の関野神社の境内でサーカス小屋が建てられた。当時の私にとってサーカスは、大変刺激的で驚嘆した記憶が残る。最近この神社を訪れたところ、敷地が狭く、ここでサーカスが催されたのかと不思議に思った。子どもの心にはサーカスの世界は、大きな大きな宇宙だったのだろう。

※今年度の会員交流会は、新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、誠に残念ながら「中止」とさせていただきます。次回(来年度)の開催時にご出席いただきますことをお願い申し上げます。